

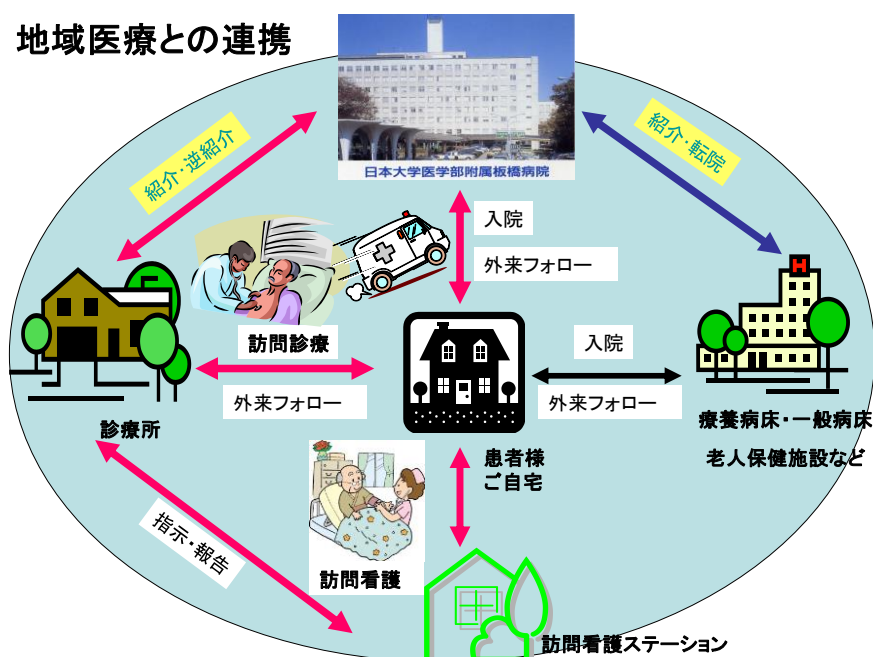
退院の不安

Q. 化学療法は限界と言われ、退院を勧められました。一人暮らしですし、痛みと吐き気とお腹の張りが続いている、家で急に具合が悪くなったら、誰が助けてくれるのでしょうか？退院は不安です。

A. つらい病状が続く中、家でお一人で過ごすことは、確かに不安だと思います。入院はご不便なことがあっても、病院にはいつも誰かがいますから安心ですが、家にお一人で具合の悪いときは、誰かの助け、医療面と生活介護面、両方からの助けが必要です。

今はこのようなご病状の、お一人暮らしの方でも、住み慣れた我が家で、不安なく医療を受け、つらい症状を緩和して、ご自分らしい生活を送ることができる、在宅ケアの制度がかなり整ってきました。

医療面では、当院医師との連携を取った上で、診療所の医師と、訪問看護ステーションの看護師が連携し、定期的にご自宅を訪問して、きめ細やかな診療と看護を提供する方法があります。緊急の時には、24時間連絡対応ができ、外来受診や入院治療などの必要時は、速やかに対応できるように、退院前から密に連絡調整を行います。



生活介護面では、お食事の準備やお洗濯、外出時の付き添い、安否確認や話し相手などの日々のお世話をするホームヘルプや、ベッドの準備など、患者様が受けたいサービスを介護保険制度などからご利用できるように調整いたします。

当院ではこのようなご支援を、在宅療養支援室（内線 3167）の看護師・保健師が行っていますのでこちらもどうぞご利用ください。

（医療連携センター内）

在宅療養支援室

場所：1階 玄関脇

時間：平日 8：30～16：30

土曜 8：30～14：00

日祭日・休診日 休み

電話：03-3972-8111

内線 3167

FAX：03-3972-8187

